

保健師だより

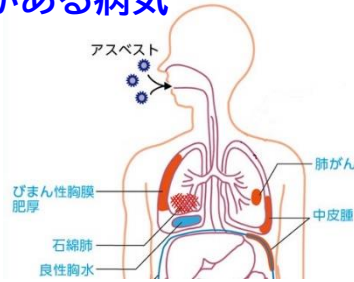


第 227 号
2022 年 2 月
神奈川県建設連合
国民健康保険組合
藤田

神建連国保では粉じんやアスベストが原因で起こる肺の病気を発見する目的で、指定医療機関で胸部レントゲン検査を受けた組合員の方を対象に職業病の専門医が職業病の観点から再度胸部レントゲンを読影しています(再読影)。今回はアスベストと関わる病気のお話です。

アスベストとの関連がある病気

- 石綿肺
- 肺がん
- 悪性中皮腫
- 良性石綿胸水
- びまん性胸膜肥厚



アスベストとの関連が明らかな労災疾病として、この5つの病気が認められています。これら病気による令和2年度労災決定件数は全国で 1,060 件でした。

再読影で指摘が最も多い胸膜肥厚斑

胸腔の内側を覆う胸膜が部分的に厚くなったもので、**過去のアスベスト暴露の証拠となる重要な所見**ですが、専門医でないと見落とされることが多い所見です。良性の変化なので受診の必要はありませんが、毎年の継続した健康診断による健康管理が大切です。

こんな症状ありませんか？

息切れが早くなった気がする
せきをすることが多い
朝起きてすぐたんがでることが多い
座っている時より横になると息苦しい
風邪をひくと長引く など



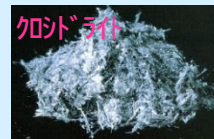
健康診断の受診はもちろん、体調の変化に気を配り、こうした症状に気づいたら早めに専門医に相談しましょう。

アスベストの 9 割は建材使用されてきました！

アスベスト(石綿)は細かい繊維でできた鉱石で、耐火・断熱・防音を目的に大量に建材として使用されてきました。この繊維を吸い込むと肺の肺胞まで到達します。原則全面禁止となった2006年以前に建てられた建物にはアスベストを含む建材が使われている可能性があります。

解体や改修の現場ではアスベスト暴露を予防するための飛散防止対策を徹底しましょう。

※令和3年度よりアスベスト工事の規制が強化されています。



正しい診断が難しいアスベストの病気

アスベスト暴露から20~40年の長い時間を経て発病することから、医師がアスベストとの関連を疑わないために別の病気として診断を受けることもあります。

石綿肺を間質性肺炎や肺線維症、慢性気管支炎などの病名で診断されたり、肺がんの場合、喫煙歴が原因として、アスベスト暴露との関連が見過ごされるケースもあります。

気になる呼吸器の症状がある場合は、職業病の専門医を受診することが大切です。正しい診断を受けることで適切な治療が受けられるだけでなく、労災やアスベスト給付金制度の申請が可能かどうかも診てもらうことができます。

気になる症状がある時は職業病の専門医への受診を！

神建連国保の再読影は現在2名の医師で行っています。協同ふじさきクリニックの安西医師と御成門内科クリニックの渡邊医師です。

健康ウオーカーの1月、2月号ではお2人の先生をそれぞれご紹介しています。神建連国保のホームページ上で閲覧ができますので、ぜひご覧になってください。

気になる症状があるなどの健康相談は神建連国保の保健師まで！
お気軽にご相談ください。 保健師直通 ☎045-441-2989

健康ウオーカーも
チェック↓

